

# 2020年3月期 第2四半期 業績概要

窪田 顕文

アンリツ株式会社  
取締役  
専務執行役員 CFO

2019年10月31日

Beyond  
2020



5G Testing  
Anritsu



東証第1部：6754  
<https://www.anritsu.com>

Anritsu  
envision : ensure

(ノート部記載なし)

## 注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

(ノート部記載なし)

## 目次

- I. 事業概要
- II. 2020年3月期第2四半期 連結決算概要
- III. 2020年3月期 通期業績予想（連結）
- IV. 5Gサービスのロードマップと  
当社の取組について

（ノート部記載なし）

# I. 事業概要

**T&M事業**  
ネットワーク社会の進化・発展

- ▶ モバイル市場：5G, LTE
- ▶ ネットワーク・インフラ市場：有線・無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場：電子部品、無線設備

**PQA事業**  
食の安全・安心

- ▶ X線検査機
- ▶ 金属検出機
- ▶ 重量選別機

**その他**

- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス

(セグメント別売上比率) 2019年3月期 実績(連結) : 997億円

<b>T&amp;M 68%</b>			<b>PQA 23%</b>	<b>その他 9%</b>
<b>モバイル 53%</b>	<b>ネットワーク・インフラ 26%</b>	<b>エレクトロニクス 21%</b>		

(T&M事業 地域別売上比率)

<b>日本 19%</b>	<b>アジア、パシフィック 33%</b>	<b>米州 32%</b>	<b>EMEA 16%</b>
---------------	-----------------------	---------------	-----------------

T&M: Test & Measurement    PQA : Products Quality Assurance

(セグメント別売上比率) 2020年3月期 (4月~9月)実績(連結)

<b>T&amp;M: 71%</b>			<b>PQA 21%</b>	<b>その他 8%</b>
<b>モバイル 52%</b>	<b>ネットワーク・インフラ 27%</b>	<b>エレクトロニクス 21%</b>		

(T&M事業 地域別売上比率) 2020年3月期(4月~9月)実績

<b>日本 19%</b>	<b>アジア、パシフィック 41%</b>	<b>米州 27%</b>	<b>EMEA 13%</b>
---------------	-----------------------	---------------	-----------------

## II - 1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

### ▶ 前年同期比増収、増益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	479	536	57	12%
売上高	443	498	55	12%
営業利益	35	66	31	90%
税引前利益	37	64	27	73%
当期利益	31	47	16	49%
当期包括利益	44	34	△ 10	△ 23%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

グループ全体の受注高は前年同期比 12%増の536億円、売上高は前年同期比12%増の498億円となりました。営業利益は前年同期比90%増の66億円となりました。

当期利益は前年同期比49%増の47億円となりました。当期包括利益は、海外子会社の財務諸表の換算差額が為替の影響によりマイナスであったため、前年同期比23%減の34億円となりました。

## II - 2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

➡ T&M：5G開発需要は順調

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
T&M	売上高	292	352	60	21%
	営業利益	25	59	34	132%
PQA	売上高	114	107	△7	△6%
	営業利益	9	5	△4	△46%
その他	売上高	37	39	2	5%
	営業利益	4	7	3	52%
調整額	営業利益	△3	△4	△1	-
合計	売上高	443	498	55	12%
	営業利益	35	66	31	90%

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

T&M: Test & Measurement PQA: Products Quality Assurance

Anritsu envision:ensure

6

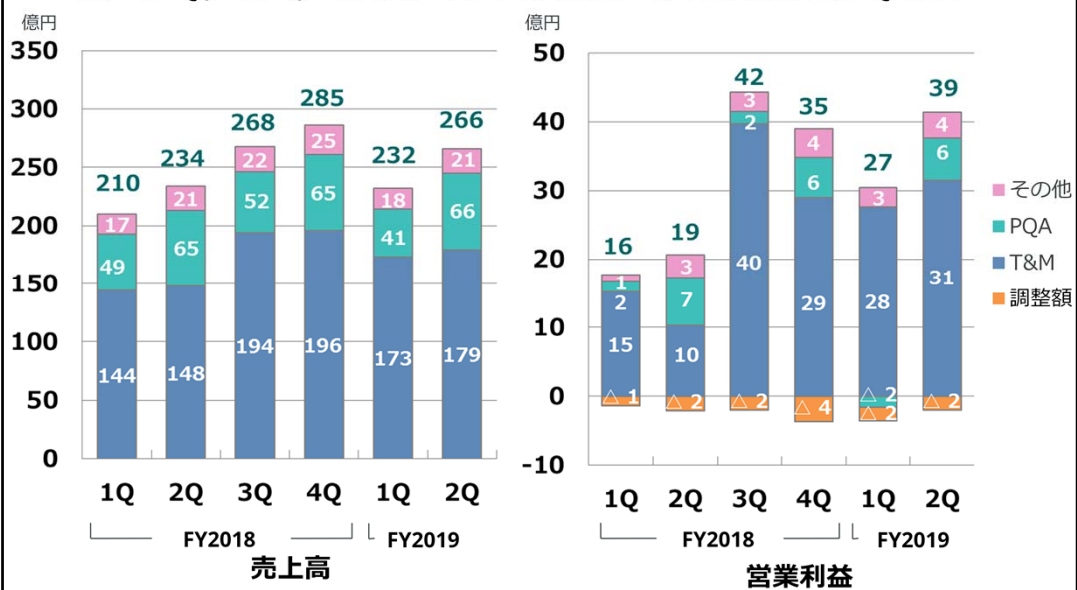
Financial Results FY2019 2Q  
Copyright © ANRITSU

T&M事業において、5G開発需要は順調で、前年同期比で増収増益となり、売上高は21%増の352億円、営業利益は132%増の59億円(営業利益率16.8%)となりました。

PQA事業において、第2四半期の業績は改善しましたが、第1四半期の不振を補うまでには至らず、前年同期比減収減益となり、売上高は7億円減の107億円、営業利益は、4億円減の5億円になりました。

## Ⅱ - 3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

➡ 2 Q(7-9月)営業利益率：連結15%, T&M18%,PQA9%



第2四半期の連結及び各事業セグメントの営業利益、営業利益率は下記のとおりです。

- 連結 39億円(営業利益率: 14.8%)
- T&M 31億円(営業利益率: 17.6%)
- PQA 6億円(営業利益率: 9.4%)

## II - 4. 事業別営業概況

セグメント		2020年3月期第2四半期（4月-9月）の状況	
<p><b>➡ T&amp;M</b> : 5G商用化スケジュールが順調に進展</p>			
モバイル	LTE	LTE-Aの投資は抑制・縮小が続く	
	5G	5G開発の需要が順調に推移	
Network Infrastructure		5Gネットワークの整備が始まる	
アジア	中国5Gプレサービスに伴い投資拡大		
米州	5Gサービスが開始。今後のエリア拡充に注視		
<p><b>➡ PQA</b> : 国内・海外とも食品市場の品質保証、自動化、省力化の投資が堅調</p>			

T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

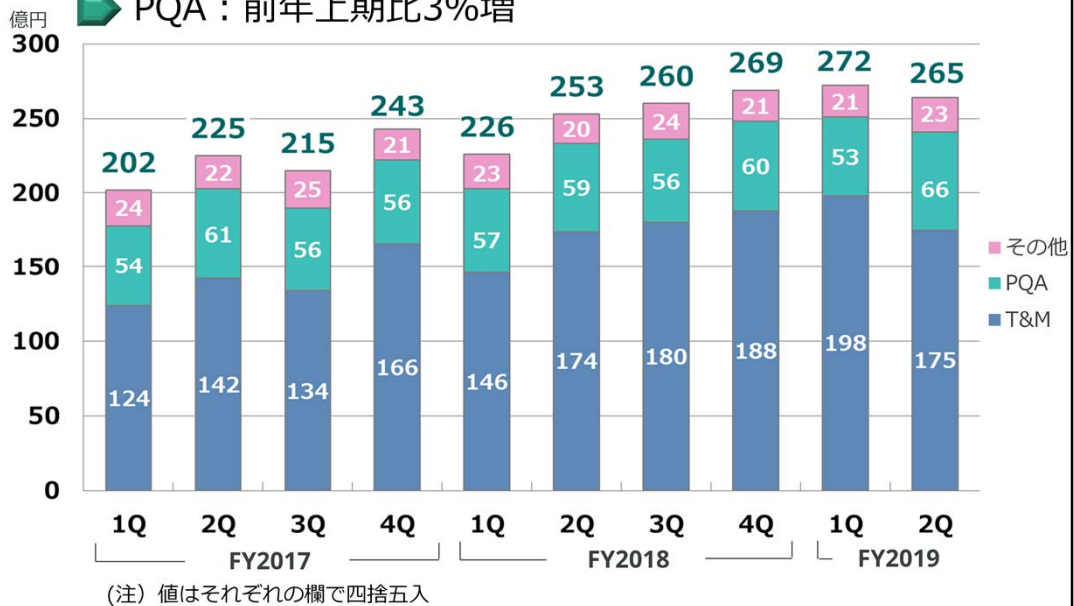
(ノート部記載なし)



## II - 5. 受注高推移

➡ T&M：前年上期比16%増

➡ PQA：前年上期比3%増



Anritsu envision:ensure

9

Financial Results FY2019 2Q  
Copyright© ANRITSU

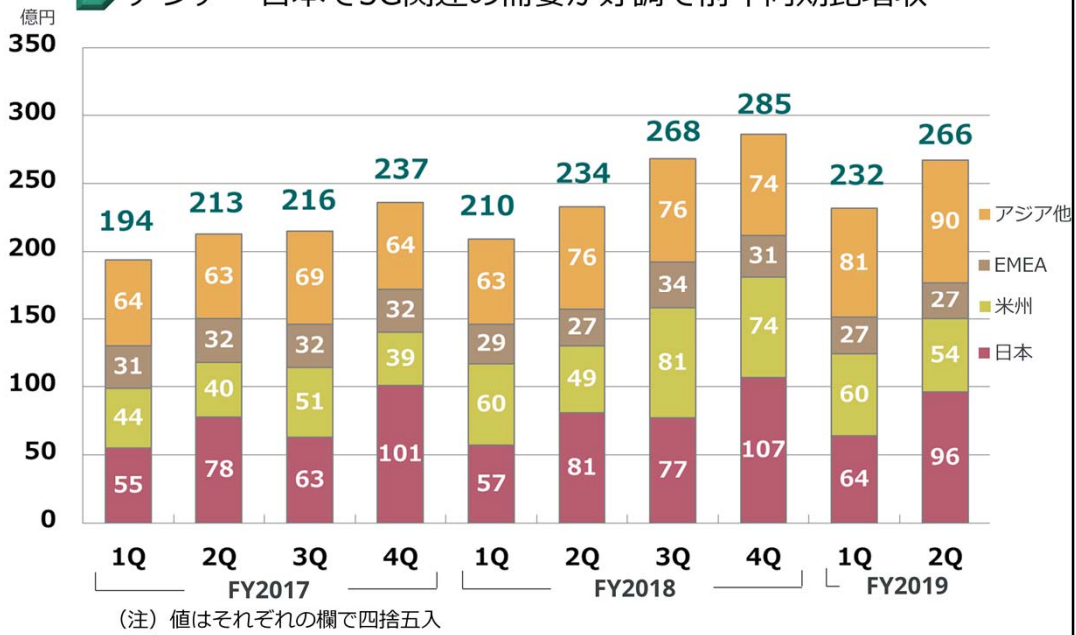
T&M事業の上期受注高は、5G開発関連需要を順調に獲得し、前年同期比53億円(16%)増の373億円となりました。

PQA事業の上期受注高は、前年同期比3億円増(3%増)の120億円となりました。

なお、受注残高はグループ全体で253億円(前年同期比4%増)、T&M事業では176億円(同4%減)、PQA事業では58億円(同27%増)でした。

## II - 6. 地域別売上高推移

▶ アジア・日本で5G関連の需要が好調で前年同期比増収



(ノート部記載なし)

## Ⅱ - 7. キャッシュフロー

▶営業CFマージン率17.4%

### FY2019 2Q (累計)

①営業CF： 87億円

②投資CF： △ 11億円

③財務CF： △ 57億円

### フリーキャッシュフロー

(①+②)： 76億円

### 現金同等物期末残高

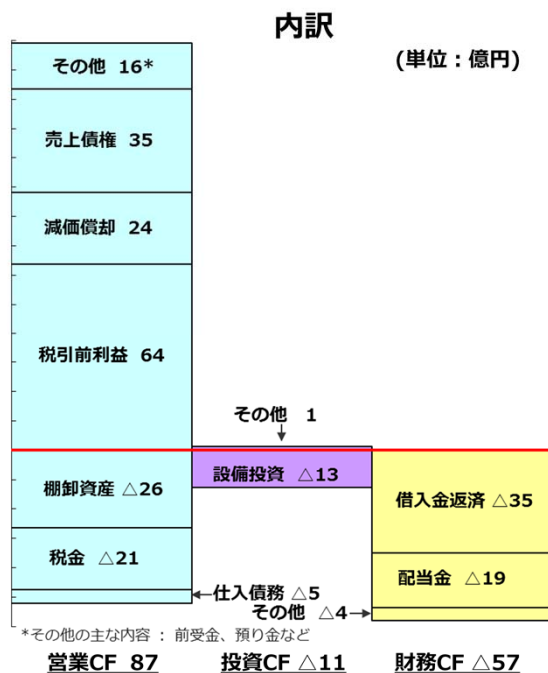
461億円

### 有利子負債残高

(リース負債を含む)

147億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



営業キャッシュフローは、87億円の資金獲得となりました。

投資キャッシュフローは、11億円の支出でした。

その結果、フリー・キャッシュフローは76億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフローは、57億円の資金支出となりました。主なものは、借入金返済35億円、配当金の支払い19億円(期末配当分1株13.5円)です。

以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より10億円増加の461億円となりました。

### Ⅲ. 2020年3月期 通期業績予想（連結）

#### ➡ T&M事業の売上、営業利益予想を上方修正

（単位：億円）

		2019/3期	2020/3期			
		前期実績	通期予想		前期比	
			4/25発表	今回	増減額	増減率(%)
売上高		997	1,020	1,030	33	3%
営業利益		112	100	115	3	2%
税引前利益		114	100	115	1	1%
当期利益		90	75	85	△ 5	△ 5%
T&M	売上高	682	690	700	18	3%
	営業利益	94	80	95	1	1%
PQA	売上高	231	245	245	14	6%
	営業利益	16	20	20	4	24%
その他	売上高	84	85	85	1	1%
	営業利益	11	9	9	△ 2	△ 21%
調整額		△ 9	△ 9	△ 9	0	-

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入

（参考）FY18 為替レート : 1米ドル111円、1ユーロ=128円  
FY19 期初想定為替レート : 1米ドル105円、1ユーロ=125円  
FY19 下期想定為替レート : 1米ドル105円、1ユーロ=125円

Anritsu envision:ensure

12

Financial Results FY2019 2Q  
Copyright © ANRITSU

2019年4月25日に開示した2020年3月期（2019年4月1日～2020年3月31日）の業績予想について、修正することとしました。

主力のT&M事業において、5G関連のモバイル市場向け開発用計測需要が順調に推移しています。特にアジア地域において、5Gの開発需要が期初の計画を上回る見込みであることから、通期の業績予想を修正します。

なお、配当につきましては、期初計画通り1株当たり年間22円を予定しております。

## IV. 5Gサービスのロードマップと 当社の取組について

アンリツ株式会社  
代表取締役 社長

**濱田 宏一**

(ノート部記載なし)

## 令和元年台風19号災害の影響に関して

2019年10月12日（土）夜から13日（日）未明にかけて、東日本を縦断した「台風19号」により、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

「台風19号」による河川の氾濫により、福島県郡山市に所在する連結子会社の東北アンリツ株式会社第一工場が被災いたしました。

当社は、地域の復興支援に協力すると共に、従業員ならびにその家族の安全を優先して、同工場における生産体制の復旧に取組み、現在、出荷を再開しております。

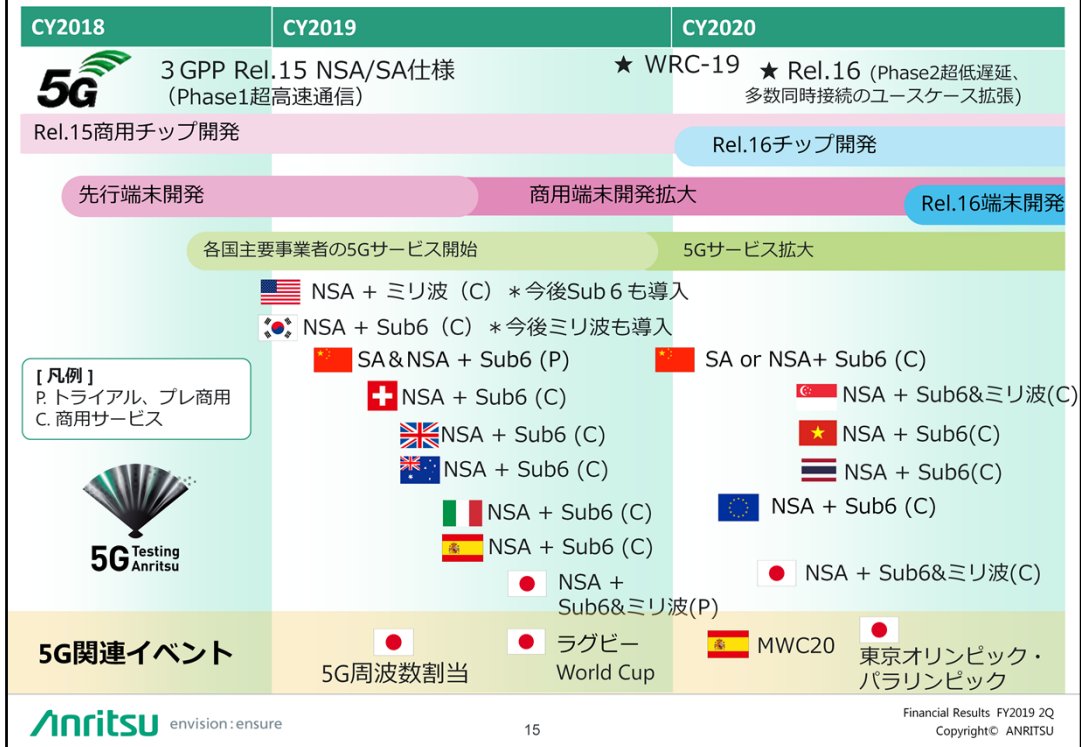
被災に際し多大なご協力お心遣いを頂いた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



(ノート部記載なし)

# IV- 1. 5Gサービスのロードマップ

\* 出所：一般公開情報を参考当社作成



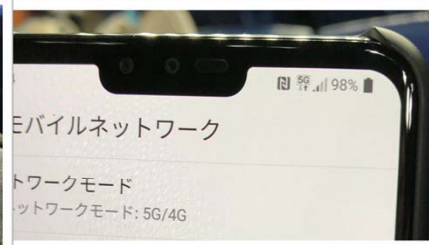
2018年に3GPPにて5G Release15(超高速通信)の標準化が完了しました。その結果、2018年12月から米国と韓国で5Gサービスが開始され、次いで、欧州(2019年4月:スイス、5月:英国、6月:イタリアおよびスペイン)、オーストラリア(2019年5月)など世界各国で5Gサービスが始まっています。中国においては、5Gの営業ライセンスが国内の通信事業者4社に発行されるなど、2020年サービス開始に向け、スケジュールに変更はありません。また、シンガポール、タイおよびベトナムなど東南アジアでも2020年中に5Gサービスが開始される予定です。5Gのトライアル/商用化が各国へ広がりを見せています。

本日は、日本において9月に開幕したラグビーワールドカップ会場で提供されている5Gプレサービスについて紹介致します。

## IV- 2.ラグビーワールドカップと5G（1/2）



◀ 5Gのスマートフォン  
2画面モデル（サブ6）



天井に設置された  
5G用無線装置 ▶



日本では、9月開催のラグビーワールドカップで使用する12競技場のうち8競技場で5Gプレサービスが実施されています。



## IV- 2.ラグビーワールドカップと5G (2/2)

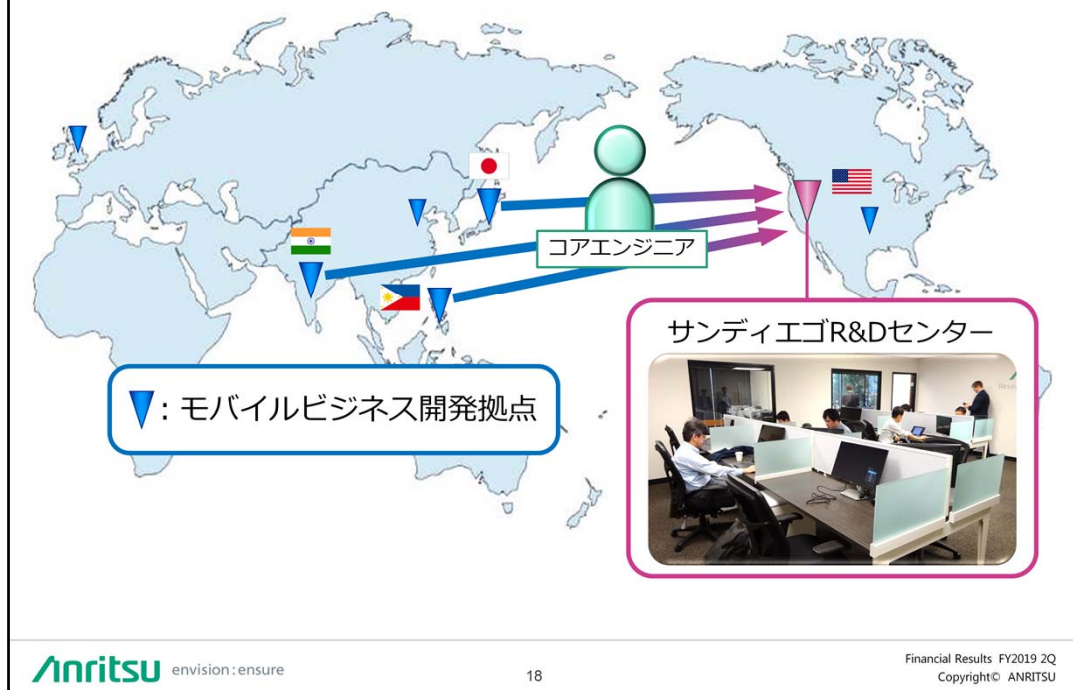


◀ ダブルディスプレイ  
端末によるマルチア  
ングルの4K画像



実際に試合を観ながら5G対応のダブルディスプレイ端末を使ってマルチアングル視聴が楽しめそうです。

## IV- 3.サンディエゴR&Dセンター開設



当社は、米国モバイル関連のお客様の開発サポートをより充実させるため、2019年9月にカリフォルニア州サンディエゴにR&Dセンターを開設しました。同R&Dセンターには、日本、インドおよびフィリピンからもコアエンジニアを派遣し、お客様の要望に柔軟に対応出来る開発サポートを提供致します。モバイル技術の先端分野で、主要お客様との協力関係を強化してまいります。



(ノート部記載なし)